

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 20 日作成)

小委員会名	アセトアルデヒドによる室内空間環境に関する アカデミックスタンダード小委員会		主 査 名：池田耕一 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：加藤信介
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセトアルデヒドによる室内空気汚染に関する濃度等の手法について検討</li> <li>・「アセトアルデヒドによる室内空気汚染に関する濃度等規準・同解説」を刊行する。</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 池田耕一(国立保健医療科学院), 三田村輝章(足利工業大学), 鍵直樹(国立保健医療科学院), 天野健太郎(竹中工務店), 熊谷一清(東京大学), 関根壽香(東海大学), 武廣絵里子(鹿島建設), 湯懷鵬(新菱冷熱), 長谷川麻子(熊本大学), 舟木理香(建材試験センター), 北條祥子(尚絢学院大学) 堀 雅宏(横浜国立大学), 山口一(清水建設), 山田裕巳(積水ハウス)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2008 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 規準原案の検討・作成 2. 外部査読者の選定・実施 3. 外部査読に関する修正, 回答の作成
委員会活動の問題点・課題	1. パブリックコメント・講習会の早期実施 2. 規準の完成 3. 講習会の開催

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2008 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>D</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>企画刊行委員会所属の小委員会として今年度2年目の最終年の「アセトアルデヒドによる室内空間環境に関するアカデミックスタンダード小委員会」では、「アセトアルデヒドによる室内空気汚染に関する濃度等規準・同解説」を刊行するために、外部査読を実施し、多くの議論を行ってきた。しかしながら、3化学物質アカスタ及び既刊の「ホルムアルデヒドによる室内空気汚染に関する濃度等規準・同解説」との整合性の調整に多くの時間を掛けたため、シンポジウムの開催、規準の刊行、講習会の実施が行うことができなかった。この議論を規準に取り込むために、多くの検討と時間をかけた。本書の刊行遅延については、環境工学本委員会、企画刊行委員会等、本会関係者に多大なご迷惑をおかけしますことを深謝いたします。今後1年の間に、規準刊行に向けて精力的に行っていく。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。